國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

「災害・復興と伝統文化の役割に関する学際的研究」報告書

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2024-10-31
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001078

「災害・復興と伝統文化の役割に関する学際的研究」報告書

本報告書は、平成二十九年度科学研究費補助金・基盤研究（C）「災害・復興と伝統文化の役割に関する学際的研究」（課題番号：一七K一二六二〇、研究代表者：古沢広祐）の研究成果について、その概要を報告するものである。以下、本研究の背景、テーマ及び目的について述べた上で、現地調査論考編及び自然災害伝承データベース論考編を掲載する。

◇本研究の背景

國學院大學研究開発推進センターにおいては、平成二十二年度以降、持続的発展社会モデル析出に向けた総合的学問領域の開拓を目的とした学際的研究事業として、「共存学」研究プロジェクトを実施してきた。特に平成二十三年の東日本大震災以降は、被災地をフィールドとした調査を行い、「自然環境」と「人」との「共存」関係について学際的な視点から分析し、「災害復興」の課題や復興を推進する原動力についての考察を深めることとなった（國學院大學研究開発推進センター編『共存学』1・2・3、弘文堂など参照）。これらの調査研究においては、災害復興過程における人々の暮らし・コミュニティ・文化など（ソフト面）での再建の重要性が認識され、被災地復興がハード面のみならず、地域コミュニティに深く関わる伝統文化の役割が大きいことに着目することとなった。

こうした研究調査の蓄積の中から、我々は、伝統文化に内在する可能性に着目し、コミュニティの維持・活性化と復興の原動力としての祭事・郷土芸能の果たす役割を検討することを課題としてきた。また、これに関連して、宗教文化と自然災害に関わる歴史資料をもとに、災害情報を収集し分析することにより、地域史から自然災害の記録を掘り起こすことにも取り組んできた経緯がある。

◇本研究のテーマ及び目的

以上の研究蓄積と活動をベースにして、平成二十九年度科学研究費補助金・基盤研究（C）「災害・復興と伝統文化の役割に関する学際的研究」（課題番号：一七K一二六二〇、研究代表者：古沢広祐）のテーマを設定し、次の二つの柱を中心とする研究に取り組むこととなった（平成二十九年度～令和元年度）。

（A）「地域コミュニティ（特に被災地）の「復興」における伝統文化の意義・役割・可能性に関する研究」。東日本大震災以降の被災地復興の過程における伝統文化・宗教の役割について検討することを目的として、それらがコミュニティの維持・活性化に果たす役割などを検討するべく、被災地における調査・研究を進める。

（B）「自然災害と地域史に関する研究」。宗教文化（神社関係を中心とする）と自然災害に関わる歴史資料・文献について、被災地・被災想定地域を中心に収集・分析し、それらの記録を抽出してデータベースを作成することを目的とする。主に太平洋・瀬戸内海に面した諸国に所在する延喜式内社の記録（『延喜式』巻八・九所載の神祇）のうち、自然災害に関する伝承を持つ神社を抜き出し、災害に関する記載事項を抽出して、自然災害伝承データベースの作成をおこなう。

【研究組織】（所属は令和元年度当時、敬称略）

・研究代表者＝古沢広祐（國學院大學）

・研究分担者＝藤田直子（筑波大学）、吉野裕（帝京大学）、齋藤平（皇學館大学）、滝澤克彦（長崎大学）

・連携研究者＝茂木栄（國學院大學）、黒崎浩行（國學院大學）、松本久史（國學院大學）、藤本頼生（國學院大學）、笹生衛（國學院大學）、林和生（國學院大學）、加瀬直弥（國學院大學）、山本健太（國學院大學）

・研究協力者＝塩川哲朗（國學院大學）

※本報告書の現地調査論考編は（A）の成果、自然災害伝承データベース論考編は（B）の成果である。なお、「自然災害伝承データベース」については、時期未定であるが、今後アップロードして公開する予定である。